

乳房用超音波画像診断装置

InveniaABUSの検査について

Invenia ABUSと従来の超音波診断装置との違い

	Invenia ABUSの検査方法	従来の超音波診断装置の検査方法
特徴	 <p>超音波の探触子の幅が15cm 自動で動いて撮影を実施</p>	 <p>超音波の探触子の幅が4~5cm 検査者が探触子を手で持ち 乳房の上を走査して撮影を実施</p>
メリット	検査の再現ができ、検査を見直すことができる 検査施行者に技量に左右されない 乳房を立体的に把握できる 乳房に触れる事なく検査が可能	個人差はあるが、圧迫がすくなく、 通常痛みは少ない
デメリット	個人差があるが、押される感じの痛みがある場合 がある 体型によって検査が難しい場合がある	検査の再現や見直しができない 検査施行者の技量に左右される 平面的な画像での乳房把握

Invenia ABUSの検査手順

1. 検査にあったポジション(体位)で検査を行います。
検査着を脱ぎ、仰向けでベッドに横になって頂きます。
右側の乳房から検査を行います。
右肩を少しあげて肩枕を入れ、お身体を左に傾けます。
腕は力を抜いて横に置いてください。
誘導に従い、腕を上げていただきます。
*お身体に痛い部分があれば(肩を痛めている等)
お知らせ下さいます様お願いします。
2. 専用のローション(白い乳液状のもの)を胸に広げます。
*化粧品やアルコールでかぶれてしまう場合は、
予めお知らせ下さいます様お願いします。
3. 超音波の機械を胸にあてて検査していきます。
機械が動いている間は、お話ししないようお願いいたします。
押される感じ、なぞられる感じがあります。
感じ方に個人差があります。
(痛みを訴える方、くすぐったいなど)



*写真提供:GEヘルスケア・ジャパン株式会社

通常は左右、それぞれ3回程度撮影し、合計6回撮影して終了です。
検査時間は10~15分程度です。